

# 参考文献目録

## テキスト

中村 幸彦  
校注 上田秋成集 岩波書店 日本  
古典文学大系 一九五九・七・六

## 参考文献

- 雑賀 貞次郎 牟婁口碑集 郷土研究社 一九二七・八・二十三
- 折口 信夫 折口信夫全集第十五卷 中央公論社 一九五五・一二
- 松村 武雄 日本神話の研究 培風館 一九五八・六・二十五
- 倉野 憲司 古事記評解 有精堂 一九六二・四・二十
- 中村 幸彦 秋成 角川書店 日本古典鑑賞講座  
第24巻 一九六二・八・二十
- 林 房雄 白夫人の妖術 新潮文庫 一九六八・三・十
- 谷口 澄夫 岡山県の歴史 山川出版社 県史シリーズ33  
一九七〇・三・二十
- 福井 久蔵 枕詞の研究と釋義 有精堂 一九七〇・五・三十
- 柳田 國男 一目小僧その他 角川文庫 一九七一・九・十
- 関 敬吾 日本昔話集成 角川書店 一九七二・四・十
- 南方 熊楠 十二支考 平凡社 東洋文庫  
一九七三・十・二十
- 荒木 繁 説経節 平凡社 一九七三・一一・十
- 佐藤 四信 出雲国風土記の神話 笠間書院 一九七四・六・二十

高嶋 雄三郎	ものと人間の文化史・松	法政大学出版局	一九七五・十・一
大輪 靖宏	上田秋成文学の研究	笠間書院	一九七六・一・三十
倉野 憲司	古事記全註釈	三省堂	一九七八・四・三十
福沢 諭吉	福沢諭吉選集 第3巻	岩波書店	一九八〇・一二・一八
吉田 精一	古典文学概論 吉田精一著作集	桜楓社	一九八一・十・十二
豊田 武	日本の封建制	吉川弘文館	一九八三・一二・一
女性学研究会	女のイメージ	ミネルヴァ書房	一九八四・六・二十五
五来 重	吉野・熊野信仰の研究	名著出版	一九八五・十・十一
肥留川 嘉子	説経の文学的研究	和泉書院	一九八六・二
森山 重雄	上田秋成史的 情念の世界	三一書房	一九八六・三・三十一
阿部 眞司	蛇神伝承論序説 清姫の原像を求めて	新泉社	一九八六・九・三十
高田 衛	江戸幻想文学誌	平凡社	一九八七・四・十
中村 璋八	五行大義	明徳出版社	一九八八・三・三十
吉見 周子	女と家	同成社	一九八八・七・十六
丸山 静	熊野考	せりか書房	一九八九・一
高田 衛 編・校注	江戸怪談集 上・中・下	岩波文庫	一九八九・一・十七
土橋 寛	日本古代の呪禱と説話	埴書房	一九八九・十・三十
吉野 裕子	陰陽五行と日本の民俗	人文書院	一九八九・十二・三十
川越 淳二	家族と地域社会 ―その存在形態と 意識形態―	名著出版	一九九〇・三・三十一
		愛知大学 総合郷土研究所 研究叢書 6	
		土橋寛論文集 下	
		山岳宗教史 研究叢書 4	
		豊田武著作集 第8巻	

上野 千鶴子	家父長制度と資本制 マルクス主義 フェミニズムの地平	岩波書店		一九九〇・十・三十一
野本 寛一	熊野山海民俗考	人文書院		一九九〇・十一
小山 静子	良妻賢母という規範	勁草書房		一九九一・十・十五
近藤 春雄	中国の怪異と美女 志怪・伝奇の世界	武蔵野書院		一九九一・十一・三十
赤坂 憲雄	方法としての異界	新曜社		一九九一・十二・二十
三浦 佑之	古代叙事伝承の研究	勉誠社		一九九二・一・二十
奥田 暁子 岡野 治子	宗教の中の女性史	青弓社		一九九三・四・三十
脇田 晴子	ジェンダーの日本史	東京大学出版会		一九九四
吉野 裕子	神々の誕生 易・五行と日本の神々	岩波書店		一九九四・四・十五
古橋 信孝 三浦 佑之 森 朝男	人生と恋	勉誠社	古代文学講座 4	一九九四・八・十
崔 仁鶴	韓日昔話の比較研究	三弥井書店		一九九五・二・十五
木越 治	秋成論	ぺりかん社		一九九五・五・三十一
馬場あき子	馬場あき子全集 卷4 卷	三一書房		一九九五・十二・三十一
大原 健士郎	「家族愛」その精神的病理 ―依存の心理と 孤独の心理	講談社		一九九六・二・二十三
宗政 五十緒	都名所図会を読む	東京堂出版		一九九六・三・十五
馬淵 和夫	三輪山伝承の原郷	大修館書店		一九九六・六
馬淵 和夫	古典の窓	大修館書店		一九九六・六・二十
鵜月 洋	雨月物語評釈	角川書店		一九九六・八・十
田中 卓	新選姓氏録の研究	国書刊行会	田中卓著作集	一九九六・十一

速水 侑	観音・地藏・不動	講談社現代新書	一九九七・一・十
谷川 健一	日本の地名	岩波新書	一九九七・四・二十一
柳田 国男	柳田国男全集	筑摩書房	柳田国男全集 一九九七・十二・二十
荻原 千鶴	日本古代の神話と文学	埴書房	一九九八・一・三十
上野 千鶴子	ナシヨナリズムと ジエンダー	青土社	一九九八・三・十五
長島 弘明	雨月物語の世界	筑摩書房	ちくま学芸文庫 一九九八・四・九
和田 嘉寿男	古代文学と信仰の旅	和泉選書	一九九八・六・二十五
古事記学会編	古事記の神々	高科書店	古事記研究大系 51 一九九八・六・三十
小松 和彦	悪霊論 異界からのメッセー	ちくま学芸文庫	一九九八・九・十五
豊田 国夫	日本人の言霊思想	講談社学芸文庫	一九九八・十・二十
高田 衛	女と蛇	筑摩書房	表徴の江戸文学誌 一九九九・一・二十
湯浅 泰雄	日本人の宗教意識	講談社	一九九九・一・二十
阿部 眞司	大物主伝承論	翰林書房	一九九九・十二・三
井上 泰至	雨月物語論 源泉と主題	笠間書院	一九九九・四・十五
柳田 國男	妖怪談義	講談社学芸文庫	一九九九・五・二十
坂東 健雄	上田秋成『雨月物語』論	和泉書院	一九九九・六・二十
谷川 健一	日本の神々	岩波新書	一九九九・六・二十一
鈴木 大拙	日本的靈性	岩波書店	一九九九・七・五
米村 千代	「家」の存続戦略 歴史社会学的考察	勁草書房	一九九九・九・二十

遥 洋子	東大で上野千鶴子にケンカを学ぶ	筑摩書房	二〇〇〇・一・二十
戸谷 高明	古事記の表現論的研究	新典社	二〇〇〇・三・三十一
若桑 みどり	象徴としての女性像 ジェンダー史から見た 家長制社会における 女性表象	筑摩書房	二〇〇〇・五・十
佐藤 健一郎 田村 善次郎	十二支の民俗誌	八坂書房	二〇〇〇・十一・三十
上野 千鶴子	上野千鶴子が文学を 社会学する	朝日新聞社	二〇〇〇・十二・一
速水 侑	地藏信仰	はなわ新書	二〇〇一・二・二十
陸 思賢 岡田 陽一	中国の神話考古	言叢社	二〇〇一・五・二十
河出書房新社	怪異の民俗学 8 境界	河出書房新社	二〇〇一・六
小松 和彦	境界	河出書房	二〇〇一・六・三十
斎藤 美奈子	紅一点論	ちくま文庫	二〇〇一・九・十
松田 修 渡辺 守邦 花田 富士夫 校注	伽婢子	岩波書店	二〇〇一・九・二十
梅原 猛	海人と天皇(上)	小学館	二〇〇二・二・二十
西村 汎子	古代・中世の家族と女性	吉川弘文館	二〇〇二・二・二十
網野 善彦	異形の王権	平凡社	二〇〇二・九・二十
森 朝男	恋と禁忌の古代文芸史 日本文芸における 美の起源	若草書房	二〇〇二・十一・三十
ヴィクトール・ E・フランク 池田 香代子	夜と霧 新版	みずず書房	二〇〇二・十一・五
河村 湊	言霊と他界	講談社学術文庫	二〇〇二・十二・二十
河合 隼雄	おはなしの知恵	朝日文庫	二〇〇三・三・二十
青木 正次	雨月物語全訳注 上・下 講談社学術文庫		二〇〇三・三・二十

新典社研究叢書  
1 2 7

若桑	みどり	お姫様とジェンダー —アニメで学ぶ男と女の ジェンダー学入門	ちくま新書	二〇〇三・六・十
折口	信夫	古代研究Ⅲ 国文学の発生	中公 クラシックス	二〇〇三・七・十
泉谷	康夫	記紀神話伝承の研究	吉川弘文館	二〇〇三・八・十
折口	信夫	古代研究Ⅱ 祝詞の発生	中公 クラシックス	二〇〇三・十二・二十五
新渡戸 矢内原 忠雄	稲造	武士道	岩波文庫	二〇〇三・十二・三十
折口	信夫	古代研究Ⅳ 女房文学から隠者文学へ	中公 クラシックス	二〇〇四・三・十
町田	宗鳳	山の靈力	講談社	二〇〇四・三・三十
西村	汎子	戦の中の女たち	吉川弘文館	二〇〇四・十二・一
河合	速雄	神話と日本人の心	岩波書店	二〇〇五・一・十四
若桑	みどり	戦争とジェンダー	大月書店	二〇〇五・四・二十
柳田	國男	日本の伝説	新潮文庫	二〇〇五・四・三十
関根	賢司	竹取物語論 神話／系譜学	おうふう	二〇〇五・五・三
赤松	啓介	差別の民俗学	ちくま学芸文庫	二〇〇五・九・二十
石川	淳	新釈雨月物語 新釈春雨物語	ちくま文庫	二〇〇五・十一・十
西條	勉	古事記と王家の系譜学	笠間書院	二〇〇五・十一・十五
笹間	良彦	絵で見て不思議! 鬼ともののけの文化史	遊子館	二〇〇五・十一・二十一
黒川	伊保子	恋愛脳 男心と女心は、 なぜこうもすれ違うのか	新潮社	二〇〇六・三・一
折口	信夫	死者の書 身毒丸	中公文庫	二〇〇六・四・十五
馬場あき子		鬼の研究	ちくま文庫	二〇〇六・四・二十

講談社選書  
メチエ26書1

戦争・  
暴力と女性1

宮本 常一	日本文化の形成	講談社学術文庫	二〇〇六・四・二十
中村 禎里	日本人の動物観 変身譚の歴史	星雲社	二〇〇六・六・十五
柳田 國男	日本の昔話	新潮文庫	二〇〇六・六・五
小松 和彦	日本人の異界観	せりか書房	二〇〇六・八・一
窪田 蔵郎	鉄から読む日本の歴史	講談社学術文庫	二〇〇六・九・二十
佐野 誠子	搜神記 幽明録 異苑	明治書院	二〇〇六・十一・二十五
折口 信夫	古代研究Ⅰ 祭りの発生	中公 クラシックス	二〇〇七・一・十五
石原 道博 編訳	旧唐書倭国日本伝 宋史日本伝 元史日本伝	岩波文庫	中国正史 日本伝(2) 二〇〇七・一・二十五
吉野 裕子	吉野裕子全集	人文書院	二〇〇七・一・三十
水上 勉	説経節を読む	岩波現代文庫	二〇〇七・六・十五
石原 道博 編訳	魏志倭人伝・後漢書倭伝 宋書倭国伝・隋書倭国伝	岩波文庫	中国正史 日本伝(1) 二〇〇七・八・三
三遊亭 円朝	怪談 牡丹燈籠	岩波文庫	二〇〇七・八・六
川田 壽	江戸名所図会を読む	東京堂出版	二〇〇七・九・十
赤坂 憲雄	境界の発生	講談社学術文庫	二〇〇八・四・十八
ルース・ベネ ダイクト 長谷川 松治 訳	菊と刀 日本文化の型	講談社学術文庫	二〇〇八・四・十八
吉野 裕子	蛇 日本の蛇信仰	講談社学術文庫	二〇〇八・四・十八
斎藤 環	母は娘の人生を支配する なぜ「母殺し」は 難しいのか	日本放送出版界	二〇〇八・五・三十
堤 邦彦	現代語で読む 「江戸怪談」傑作選	祥伝社	二〇〇八・八・五
吉野 裕子	山の神 易・五行と 日本の原始蛇信仰	講談社学術文庫	二〇〇八・八・七

小松 和彦	神隠しと日本人	角川 ソフイア文庫	二〇〇八・九・十
小松 和彦	異人論 民族社会の心性	ちくま学術文庫	二〇〇八・十・三十
橋本 治	あなたの苦手な 彼女について	ちくま新書	二〇〇八・十二・十
小松 和彦	憑霊信仰論	講談社学術文庫	二〇〇九・二・二十
メアリ・ ダグラス・ 塚本利明 訳	汚穢と禁忌	ちくま学芸文庫	二〇〇九・三・十
斎藤 環	関係する女 所有する男	講談社現代新書	二〇〇九・九・二十
小田切 博	キャラクターとは何か	ちくま新書	二〇一〇・一・十
三浦佑之 赤坂憲雄	遠野物語へようこそ	ちくま プリマー新書	二〇一〇・一・十
日暮 聖	近世考 西鶴・近松・芭蕉・秋成	影書房	二〇一〇・二・十
桑原 博史	おとぎ草子 全訳注	講談社学術文庫	二〇一〇・二・十九
内田 樹 積 徹宗	現代霊性論	講談社	二〇一〇・三・二十三
折口 信夫	折口信夫文芸論集	講談社文芸文庫	二〇一〇・四・九
原田 実	もののけの正体 怪談はこうして生まれた	新潮新書	二〇一〇・八・二十
保立 道久	かぐや姫と王権神話 『竹取物語』・天皇・ 火山神話	洋泉社	二〇一〇・八・二十一
山口 昌男	文化と両義性	岩波現代文庫	二〇一〇・十二・六
斎藤 環	キャラクター精神分析 漫画・文学・日本人	筑摩書房	二〇一〇・三・二十五
宮田 登	妖怪の民俗学 日本の見えない空間	筑摩書房	二〇一〇・十一・二十
鳥居 明雄	をぐり 再生と救済の物語	ぺりかん社	二〇一〇・十一・九
J.G. フレインザ ー 吉川信 訳	金枝篇 上・下	筑摩書房	二〇一〇・十二・二十
		ちくま学芸文庫	

谷川 健一	蛇 不死と再生の民俗	富山房 インタール ナショナル	二〇一二・一・二十七
金谷 治 訳注	大学・中庸	岩波文庫	二〇一二・二・十五
赤坂 憲雄	異人論序説	筑摩書房	二〇一二・三・十
山竹 伸二	「認められたい」の正体 承認不安の時代	講談社現代新書	二〇一二・三・二十
山極 寿一	家族進化論	東京大学出版会	二〇一二・六・十五
網野 善彦 宮田 登彦	歴史の中で語られてこな かつたこと おんな・子供・老人からの 「日本史」	洋泉社	二〇一二・六・二十一
小松 和彦	妖怪文化入門	角川学芸出版	二〇一二・六・二十五
寺田寅彦 千葉俊二 細川光洋 編	怪異考 化物の進化	中央文庫 寺田寅彦随筆選集	二〇一二・八・二十五
黒川 伊保子	キレる女懲りない男 ―男と女の脳科学	筑摩書房	二〇一二・十二・十
常光 徹	妖怪の通り道 俗信の想像力	吉川弘文館	二〇一三・七・二十
柳田 国男	葬送習俗事典 葬儀の民俗学手帳	河出書房新社	二〇一四・七・二十
上野 千鶴子	女たちのサバイバル作戦	文芸春秋 文春新書	二〇一三・九・二十
斎藤 環	承認をめぐる病	日本評論社	二〇一三・十二・二十五
小野 成寛	道成寺絵とき本	道成寺護持会	不明

# 雑誌掲載論文

宮石 知子	「雨月物語」における女主人公の位置	1 卷 1 号	日本文学	東京女子大学 日本文学会	一九五三・七
清田 啓子	「雨月物語」の構成 三人のヒロインを通して	第 4 号	駒沢短大国文	駒沢女子大学 国文科研究室	一九七三・十二・一
古江 久彌	「吉備津の釜」を中心に	4 1 卷 9 号	国文学 解釈と鑑賞	至文堂	一九七六・七
金田 文雄	雨月物語の構造	1 3 卷	日本文芸学	日本文芸会	一九七八・十一
梅津 次郎 岡見 正雄	新修 日本絵巻物全集 第 1 8 卷		新修 日本絵巻物全集	角川書店	一九七九・十一・三十
千葉 裕子	『雨月物語』の怪異性について 「吉備津の釜」と「牡丹燈記」を中心にして	第 1 4 号	日本文学ノート	宮城学院女子大学 人文学会	一九七九・二・二十
大泉 喜久子	道成寺説話考 清姫像の変貌	昭和 5 4 年 2 月 第 1 4 号	日本文学ノート	宮城学院女子大学 日本文学会	一九七九・二・二十
林 達也	吉備津の釜	4 6 卷 7 号	国文学 解釈と鑑賞	至文堂	一九八一・七
浅野 三平	秋成の想像力と文体	4 6 卷 7 号	国文学 解釈と鑑賞	至文堂	一九八一・七
金田 文雄	「蛇性の姪」の主題と構想 ―人間像の形象をめぐって	3 1 卷	広島女学院大学論集	広島女学院大学	一九八一・十二
長島 弘明	上田秋成 雨月物語の〈磯良〉神裔の女の復讐	2 7 卷 1 3 号	国文学 解釈と教材の研究	学灯社	一九八二・九
植田 一夫	「雨月物語」における「吉備津の釜」の位相	3 3 卷 3 号	同志社女子大学 学術研究年報	同志社女子大学	一九八二・十一
西田 勝	『雨月物語』の世界 その一	1 7	上智大学 国文学論集	上智大学 国文学会	一九八四・一・十六
吉田 知子	箸墓伝承の成立	昭和 6 2 年 1 月	学苑	昭和女子大学 近代文化研究所	一九八七・一
西田 勝	『雨月物語』の世界 その二「浅茅が宿」	2 0	上智大学 国文学論集	上智大学 国文学会	一九八七・一・十七
原田 留美	箸墓伝承考	昭和 6 1 年度 古事記年報 2 9	古事記年報	古事記学会	一九八七・一・二十八
渡辺 衆介	小栗判官の形成	昭和 6 2 年 4 月号	国語と国文学	東京大学 国語国文学会	一九八七・四・一
中村 正一	雨月物語「吉備津の釜」私見 ―妓女・袖の女性像について―	6 5 卷	文学研究	日本文学研究会	一九八七・六
瀬間 正之	沙本毘賣物語と漢訳仏典	昭和 6 2 年度 古事記年報 3 0	古事記年報	古事記学会	一九八八・一・二十八
中村 博保	豊雄の夢 『蛇性の姪』序説	昭和 6 3 年 4 月号	国語と国文学	東京大学 国語国文学会	一九八八・四・一
中村 正一	雨月物語「吉備津の釜」私見 ―正太郎の人生と愛について―	2 5 卷	日本文学研究	大東文化大学 研究会	一九八八・六
和田 嘉寿男	こもりくの泊瀬小国 卷 1 3・3 3 1 0 〽 3 3 1 3 をめぐって	第 3 3 号	武庫川国文	武庫川女子大学 国文学会	一九八九・三・十五
高橋 庄次	雨月物語の神仏習合空間―連作複合詩篇の構想―	5 0 卷	近世文芸	日本近世文学会	一九八九・六
夏目 武子	上田秋成『浅茅が宿』 漆間の翁を軸にして	通巻 1 8 8 ― 9 号	文学と教育	文学教育研究集団	一九八九・七・三十
福山 京子	へ箸墓伝承への形成	第 4 9 冊	日本文学論究	國學院大學 國文學會	一九九〇・二・二十八
森田 喜郎	上田秋成が描いた女性	7 5 卷	文学研究	日本文学研究会	一九九一・六
松本 才和	雨月物語の女性 真女子・宮木・磯良	第 3 6 号	香椎潟	福岡女子大学 国文学会	一九九一・十・二十五
佐伯 順子	道成寺伝承の深層		別冊 太陽	平凡社	一九九二・十・三十
田中 憲二	雨月物語論―その登場女性の性格設定―	2 7 号	國學院大學 栃木短期大學紀要	國學院大學 栃木短期大學	一九九三・十二
小椋 嶺一	雨月物語探究	1 3 卷	江戸文学	ぺりかん社	一九九四

金田 文雄	「蛇性の姪」における物語の場 ― 記紀神話をめぐって―	4号	広島女学院大学 日本文学	広島女学院大学	一九九四・七
石丸 直子	秋成の表現と意識―「吉備津の釜」を中心に―	24号	女学院大学 国語国文学誌	広島女学院大学	一九九四・十二
藤掛 和美	照手姫幻想(1)	第6号	C U W C g a z e t t e	中部大学	一九九五・三・一
徳田 武	翻案という方法―「吉備津の釜」と「雲小玉伝」―	40巻7号	国文学 解釈と教材の研究	学灯社	一九九五・六
長島 弘明	男と女の「性」	40巻7号	国文学 解釈と教材の研究	学灯社	一九九五・六
堤 邦彦	説話・伝承の再生	40巻7号	国文学 解釈と教材の研究	学灯社	一九九五・六
川村 湊	幻想の語り―血一雫も見ず	40巻7号	国文学 解釈と教材の研究	学灯社	一九九五・六
中村 正一	『吉備津の釜』における媒氏の責任	41巻8号	解釈	教育出版センター	一九九五・八
藤掛 和美	照手姫幻想(2)	第7号	C U W C g a z e t t e	中部大学	一九九六・三・一
清原 和義	萬葉集巻13の風土表現考序説	第47号	武庫川国文	武庫川女子大学 国文学会	一九九六・三・二十一
榊原 守男	『雨月物語』にみる		学術講演既集	社団法人 日本建築学会	一九九六・七・三十
近藤 正一	文学のなかの異界とその都市・建築空間		F   2		
早瀬 幸彦	江戸期の文学空間の一考察		建築歴史・意匠		
若山 滋					
坂東 健雄	『雨月物語』に描かれた(女性) ― その「原型」をめぐって―	46巻10号	日本文学	日本文学協会	一九九七・一
児玉 里麻	女はなぜ蛇になるのか 道成寺説話を出発点として	第58輯	二松学舎大学 人文論叢	二松学舎大学 人文学会	一九九七・三・二十五
延廣 眞治	咄における継承と創造―二代目円生から円朝へ―	第70号	比較文学研究	東大比較文学会	一九九七・八・十
呉 艶	中日における異類婚姻譚 『白蛇伝』と『娘道成寺』と『芦屋道満大内鏡』	第47号	同志社国文学	同志社大学 国文学会	一九九八・一・三十
佐々木 亨	「吉備津の釜」と温羅伝説 ― 「鬼ノ城縁起」をめぐって―	124巻	国文学研究	早稲田大学 国文学会	一九九八・三
中村 正一	「吉備津の釜」における責任 ― 井沢正太夫を中心として―	87巻	文学研究	日本文学研究会	一九九八・四
神田 奈保子	雨月物語『吉備津の釜』構想論	60巻	日本文学誌要	法政大学 国文学会	一九九八・七
藤掛 和美	〈説教「小栗判官」論〉の多様性	第2号	人文学部研究論集	中部大学	一九九八・七・三十
梶川 信行	こもりくの初瀬 枕詞論への1つのアプローチ	第83号	上代文学	上代文学会	一九九九・十一・三十
菅沼 紀子	覚え書き『雨月物語』―「蛇性の姪」をめぐって	11巻	作新国文	作新学院大学	二〇〇〇・一
磯合 真弓	『雨月物語』「蛇性の姪」論 ― タイトル「蛇性の姪」の意味するもの	第3号	広島女学院大学 大学院 言語文化論叢	広島女学院大学 大学院 言語文化研究科	二〇〇〇・三
野中 真紀	『雨月物語』における「月」について	第23号	筑紫国文	筑紫学園 短期大学国文科	二〇〇〇・六
鈴木 よね子	「蛇性の姪」地名考 歌枕・国学・神話	2000年 Vol.1.49	日本文学	日本文学協会	二〇〇〇・九・十
中村 正市	雨月物語「蛇性の姪」論	第24号	尚綱大学研究紀要	尚綱学園尚綱大学	二〇〇一・二
金久保 知佳	雨月物語「浅茅が宿」宮木論	第34号	成蹊国文	成蹊大学文学部	二〇〇一・三・十二
太刀川 清	嫉妬の怨念―「吉備津の釜」の磯良の場合から―	18	学海	上田女子短期大学	二〇〇二・三
毛利 正守	大物主神が関わる「神子・神御子」の意義 古事記の場合	菅野雅雄博士 古希記念 論究	古事記・日本書紀 論究	菅野雅雄博士 古希記念 論集刊行会	二〇〇二・三・十四
安原 眞琴	近世文学と熊野 新たな熊野文学としての「蛇性の姪」	第68巻 10号	国文学 解釈と鑑賞	至文堂	二〇〇三・一
朴 熙永	「浅茅が宿」の怪奇の構造と主題	22	文学研究論集	筑波大学比較・ 理論文学会	二〇〇四・三・三十一
松本 弘毅	本牟智和氣御子と垂仁記	第50輯	文学研究紀要	早稲田大学院	二〇〇五・二・二十八

三浦 一朗	「浅茅が宿」を読む ―やつれ果てた宮木の霊の姿から―	第57巻 第12号	日本文学	日本文学協会	二〇〇八・十二・二十
雲津 まゆ	『雨月物語』攷 「吉備津の釜」磯良に見る嫉妬の様相	第37号	千葉大学 日本文化論叢	千葉大学文学部 日本文化学会	二〇〇八・七・十
丸井 貴史	「雷峰怪蹟」 試訳（上）	37号 54―68	金沢大学 国語国文学	金沢大学 国語国文学会	二〇一二・三・十五
丸井 貴史	「雷峰怪蹟」 試訳（下）	38号 28―41	金沢大学 国語国文学	金沢大学 国語国文学会	二〇一三・三・二十二

辞書・事典・辞典

横山 青娥

枕詞正解辞典

交蘭社

一九三三・四・十

大塚 龍夫

枕詞辞典

風間書房

一九四六・七・十五

原田 幹

都名所図会 全

人物往来社

一九六七・七・二十五

阿部 万蔵  
阿部 猛

枕詞辞典

高科書店

一九九〇・二・二十八

角川書店

角川古語大辞典  
第五卷

角川書店

一九九九・三

武光 誠

古事記・  
日本書紀を  
知る事典

東京堂出版

一九九九・九・二十

志村有弘

日本説話伝記  
大事典

勉誠出版

二〇〇〇・六・一

小学館

日本国語大辞典  
第二版

小学館

二〇〇一・八

吉田 茂樹

日本古代地名事典

新人物往来社

二〇〇一・十二・三十

松田 修

古典植物辞典

講談社学術文庫 講談社

二〇〇九・八・十

# 資料

市島 謙吉 編集 燕石十種 第三 市島 謙吉 發行 一九〇八・十一・三十

太田 藤四郎 統群書類従 第八輯上 統群書類従 完成会 一九二七・六

雜賀 貞次郎 牟婁口碑集 郷土研究社 一九二七・八・二十八

野上 豊一郎 解註・謡曲全集 中央公論社 一九三六・三・十五

吉田 幸一 近世怪異小説 古典文庫 一九五五・九・十五

佐成 謙太郎 謡曲大観 明治書院 一九六四・一・十

黒板 勝美 日本高僧伝要文抄・元亨釋書 吉川弘文館 一九六五・六・三十

飯田 米秋 隱徳太平記 芸備風土研究会 一九七三・四・一

荒木 繁 説経節 山椒大夫 平凡社 東洋文庫 2 4 3 一九七四・六・二十五  
山本 吉左右 小栗判官 他

桜井 徳太郎 寺社縁起 岩波書店 日本思想大系 2 0 一九七五・十二・二十三  
萩原 龍夫 宮田 登

石川 松太郎 女大学集 平凡社 東洋文庫 3 0 2 一九七七・二・二十五

平凡社 日本歴史地名大系 平凡社 一九八三・二

大神神社社務所 三輪叢書 大神神社社務所 一九八六・五・二十八  
代表・藤田勝重

小島 憲之 校注 古今和歌集 岩波書店 新編 日本古典文学全集 一九八九・二・二十

中村 幸彦	上田秋成全集	中央公論社	一九九〇・八・二十五
柳井 滋 校注	源氏物語	岩波書店	新日本古典文学大系 一九九四・一・二十
中村 幸彦 校注・訳	竹取物語 伊勢物語 大和物語 平中物語	小学館	新編 日本古典文学全集 一九九四・一二・二十
小島 憲之 校注・訳	「日本書紀」 卷第一 神代上	小学館	新編 日本古典文学全集 一九九四・四・二十
小島 憲之 校注・訳	「日本書紀」 卷第五 崇神天皇	小学館	新編 日本古典文学全集 一九九四・四・二十
中村 祝夫 校注・訳	日本靈異記	小学館	新編 日本古典文学全集 一九九五・九・十
中村 幸彦 校注・訳	英草紙 西山物語 雨月物語 春雨物語	小学館	新編 日本古典文学全集 一九九五・十一・十
森 正人 校注	今昔物語	岩波書店	新編 日本古典文学全集 一九九六・一・三十
山口 佳紀 校注・訳	古事記	小学館	新編 日本古典文学全集 一九九七・六・二十
伊藤 博	萬葉集釋注	集英社	一九九七・九・二十五
植垣 節也 校注・訳	風土記	小学館	新編 日本古典文学全集 一九九七・十・二十
小山 弘志 校注・訳	謡曲集②	小学館	新編 日本古典文学全集 一九九八・一・十四
長谷川 端	太平記④	小学館	新編 日本古典文学全集 一九九八・七・二十
富士 昭雄 校注・訳	井原西鶴集	小学館	新編 日本古典文学全集 二〇〇〇・八・二十
松田 修 校注	伽婢子	岩波書店	新日本古典文学大系 二〇〇一・九・二十

馬淵和夫	今昔物語集④	小学館	新編 日本 古典文学全集	二〇〇二・六・二十
国東文麿				
稲垣泰一				
稲田篤信	雨月物語 精読	勉誠出版		二〇〇九・四・一
星川 清孝	楚辞	明治書院	新釈漢文大系 3 4	一九七三・十二・二十
吉田 賢抗	史記（本紀）	明治書院	新釈漢文大系 3 8	一九七四・八・二十八
青柳 網太郎	原文和訳 三国遺事全	名著出版		一九七五・二・十
飯塚 朗 訳	剪燈新話・余話 西湖佳話（抄） 棠陰比事	平凡社	中国古典文学大系	一九七九・十・一
荒井 秀夫	警世通言	ゆまに書房		一九八五・八・二十
金 右京	中国小説選	角川書店		一九八九・十一・三十
干宝 訳	搜神記	平凡社	東洋文庫	一九九五 十二・二十五
竹田 晃 訳				
謝肇淪 訳注	五雜俎	平凡社	東洋文庫	一九九六・九・一
岩波 秀夫				
竹田 晃	穆天子伝・ 漢武故事・ 神異経・山海経	明治書院	中国古典小説選 1	二〇〇七・七・二十五
梶村 永麻子	他（漢・魏）			
高芝 藍				
山崎 藍				
竹田 晃	剪燈新話（明代）	明治書院	中国古典小説選 8	二〇〇八・四・十
黒田 真美子（編）				
竹田 晃 小塚 由博				
仙石 知子（著）				